

会の取組についての説明をいただき、当署の流域管理調整官が技術的な指導を行い、実行委員会が用意した挿し穂を使って、約四百本の挿し木苗を作成しました。



シラクチカズラ（サルナシ）の苗木作り

今回は培養土性発根率の向上を目指すため、従来使用してきた鹿沼土と赤玉土を配合したものの、川砂と木炭を配合したものの二種類を用いました。更に、シラクチカズラを採集した後に残った根株に接ぎ木を行い育てることができないかと考え、接ぎ木についても試験的

に実施しました。

今回、養成した苗木は数年後には国有林に植え込まれることとなりますが、今後はより健全性が高い実生苗の養成などにも取り組むこととしていきます。当署としては、今後とも協定に基づいて地域の重要な文化財である祖谷

のかずら橋を後世に伝えていけるように、国有林のフィールドや技術的知見を活かして積極的に寄与していきたいと考えています。



森林教室

(木エクラフト)を実施

〈徳島森林管理署〉

七月二四日、徳島市立内町児童館で、児童三〇名(小学一〜六年生)を対象とした森林教室(木エクラフト)を行いました。

当署では、前期と後期に分けて公募により森林教室を実施していますが、

今回の森林教室は前期分七回のうちの第三回目で、内町児童館から「子供達が木に親しみを持てるような森林教室をお願いしたい。」という内容で依頼を受けて実施したものです。

始めに、森林ふれあい係長より徳島森林管理署の仕事について説明を行いました。子供達は元気な声

「(林内が)明るくなった!」などの声があり、興味津々の様子でした。

木エクラフトでは、徳島県産材のスギ間伐材を使用した「写真立て」を作りました。木の枝などで作った動物や、ドンダリ、松ぼっくり等で飾り付けをし、思い思いに写真立てを仕上げていました。

で返事をしたり、積極的に質問するなど興味をもって話を聞いていました。また、間伐の説明では、動画で伐採する様子を見せたところ、子供達からは「木を伐るところを初めて



楽しい、木エクラフト

当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。



### 親子サマー

### キャンプに協力

〈徳島森林管理署〉

七月二十八日から二十九日にかけて、徳島県美馬市木屋平の中尾山高原を拠点に親子サマーキャンプが開催されました。これは、地球に優しいエコ・ユニオンを標榜する連合

徳島が、夏休み期間中に開催している恒例の行事で、当署は森林環境教育の一環として従来から協力しています。今回は総勢八三名の参加があり、当署からは六名の職員が支援しました。

開会式では、事務局及び地元から挨拶があり、当署からは最近の森林・林業を巡る状況やニホンジカの被害対策についての話をしました。

開会式の後、木工クラブとウォークラリー班の二班に分かれて森林教室を実施しました。木工クラブ班は、中尾山体育館で、当署から森林の働きについて説明を行った後、「森の宝箱」の

製作に取り組みました。これは、徳島県産のスギ材で開閉式の箱を組み立て、木の枝やビーズなどで飾ったり、ペイントして仕上げるものです。サマーキャンプでの木工は、夏休みの宿題にもなるので、従来から人気があり、それぞれ親子で協力してオリジナルの作品に仕上げていました。

ウォークラリー班は、つるぎ町の夫婦池まで移動して、葛籠(つづろ)国有林を經由して丸笹山(二、七二二m)に登り、帰りの散策の途中でニホンジカ対策の樹木ガードを設置するものです。当日は、あいにくの曇り空で眺望は良くありませんでしたが、丸笹

山ではシコクフウロなどの高山植物の花に出会うことができました。また、この付近では、ニホンジカによる剥皮被害が特に進行しているため、五〇本のウラジロモミなどに樹木ガードを巻き付け、「この木は私が守ります。」と書かれた名札を取り付けたかったと考えています。



この木、僕が守るよ

当署は、前・後期の公募によつて森林環境教育を実施していますが、「国民の森林」としての国有林をPRするとともに、森林整備や木材の利用、ニホンジカの被害対策などについて理解と協力を得るように今後も努めていきたいと考えています。

## 「森と湖に親しむ

### 旬間」で木工教室

〈愛媛森林管理署〉

「森と湖に親しむ旬間」の行事として、七月二七日に石手川せせらぎ公園において国土交通省、松山市等との共催により「自然と遊ぼうDAY!」と題して親子交歓会が開催され、当署は木工教室を担当しました。

当日は、小学生や保護者ら一〇四名が参加し、署長から、当日の体験予定に合わせて、森林は①水を貯めこんでくれること、②虫や鳥などの生活の場となっていること、③木材を生み出してくれることなど、人にとって大切

なものであることを説明しました。午前中はエビやカゲロウの幼虫などの水中生物を捕獲したり、双眼鏡で公園周辺の野鳥の観察をしたり、公園内の土壌をルーペで見たり触ったりしながら、子供たちは歓声を上げたり気味悪がったりしながらも、担当講師の方々からの水と森林の働きや水生生物・野鳥・昆虫等の係わりについての説明に、真剣に聞き入っていました。

午後からは愛媛県産のスギを使用した木工品製作（なんでも棚等）を行いました。普段は、釘や金槌を使用する機会が少ないせいか、なかなか思っ

ず、森林管理署の職員に仕上げをしてもらう子供もいましたが、子供たちにとっては大切な夏休みの思い出となったようでした。

その後、冷たい水を体験できる川遊び等を行い、最後にカブトムシのプレゼントもあり、楽しい夏の一日は無事終了しました。



親子で力を合わせて何でも棚作成中



## 森ヶ内山

### ふれあい事業を実施

〈四万十森林管理署〉

七月二七日、「しこくの森づくりに参加する会」主催による平成二四年度第一回森ヶ内山ふれあい事業が開催されました。

この事業は、当署と「しこくの森づくりに参加する会（代表 高知林業土木協会山中巨司）」が平成二〇年に締結した「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」に基づき、「社会貢献の森ヶ内山ふれあい事業」として高知県四万十町森ヶ内山国有林三〇三八林班（五・七ha）をフィールドとして保育間伐や林道整



森ヶ内山ふれあい事業参加者



林道の草刈りの様子

備等を行っているもので

当日は、同会から二一の企業体三四名のボランティアと、

凹凸の修繕等の作業を行いました。

一日でしたが、こまめな水分補給や適度な休憩などにより、熱中症になる

の児童とその保護者で、計二三組が参加しました。始めに、当署の森林ふ

同事業は、企業による社会貢献活動の一環として森林整備を行うことにより、清流四万十川の保全や地球温暖化防止等の公益的機能の増進に寄与することを目的として毎年二回実施されています。

ティアと、当署から職員九名が参加し、松葉川温泉に集合して、主催者として造林鎌や鋤等の手工具を用いて夏草の茂った林道沿線の除草や、路面の

森林整備の原点である手工具による作業を行うことで、少しでも先人の山づくりに携わってきた思いや苦勞を体験するとともに、事業体同士の交流も図られていました。梅雨明け後の大変暑い

秋には今年度第二回として、これまで継続して行われている保育間伐作業が予定されています。

と、森林が土砂崩れなどの災害を防いだり、地球温暖化の防止に役立っていたりすること、そして、木の製品を使うことが森林を守ることにつながるという説明を行いました。次に、見本を参考に作り方と、道具の安全な使い方などの注意点を説明した後、低学年は鉛筆立て、高学年は本立ての製作にとりかかりました。子供たちは、最初は組み立て作業に苦戦していましたが、保護者と協力しながら

「芸西村

親子木工教室」

〈安芸森林管理署〉



七月二二日、高知県安芸郡芸西村で木工教室を実施しました。対象は村内の幼稚園児から小学校

が、保護者と協力しながら



親子で力を合わせて作品づくり



ら一生懸命作品を作っていました。また、木の枝や木の実を使ってカブトムシを作ったり、どんぐりや貝殻で飾り付けたりするなど思い思いの作品を作り楽しんでいました。親子で木にふれあう貴重な機会になったと同時に、

親子の良い思い出になったと思います。

芸西村での親子木工教室は恒例行事として定着してきており、森林や木材に親しめる場として、今後実施していきたいと考えています。

### 三件目となる 森林整備協定を締結

〈安芸森林管理署〉

七月二七日、当署管内では三件目となる「奈半利町須川地区森林整備推進協定」を当署・奈半利町・高知東部森林組合の三者で締結しました。

この協定は、高知県奈半利町須川地区に所在する国有林一五〇・九九haと奈半利町官行造林六五・〇〇ha並びに民有林八六・九三haを森林共同施業団地として設定し、それぞれ

が連携して森林整備や路網整備を実施することで低コスト作業システムの構築を目的としています。

高知東部森林組合が実施することとしていきます。

今後は、協定者間の連絡調整を図るとともに、実施計画に基づき民有林と国有林が一体となった効果的な森林整備を図っていきたく考えています。



左から高橋奈半利町副町長、岡井安芸署長、田中森林組合長